

大妻学校開学の歴史的地域学的背景：

番町地域の歴史環境から見た大妻開学の背景研究

Study on the place where OTSUMA-SCHOOL established; from the historical and geological point of view

真家 和生¹，熊野 正也²，川上 元²，吉田 優³，森 朋久³，後藤 宏樹⁴，
茂木 健緒⁵，寺尾 隆雄⁶，鳴瀬 麻子¹

¹生活科学資料館，²大妻女子大学非常勤講師，³明治大学，⁴千代田区立四番町歴史民俗資料館，

⁵東京都動物園協会，⁶大妻中学高等学校

キーワード：大妻学校，大妻コタカ，番町地域，武蔵国，江戸

1. 研究の目的

本研究の目的は、大妻女子大学生生活科学資料館（平成 24 年度より大妻女子大学博物館）収蔵資料の解析および大妻学院の立地する番町・麴町地区の歴史的・地域学的背景研究をもとに、大妻学校を含む、明治末から昭和初期にかけて東京およびその近郊に多くの女子教育機関が誕生した背景、すなわち近代の日本において女子教育がこのように盛んになった背景を探ることである。

特に近世以降は、女子教育の背景として、江戸期の寺子屋教育などが関係していることが指摘できるが、遡れば縄文期を含め古代からの日本人の子供教育の歴史が関係していると言える。教育の歴史は、とりもなおさず生活技術の伝播であり、本地域の歴史的・地域学的理解なくしては把握できないものである。

そこで、本テーマを研究するために、平成 22・23 年度には、考古学・歴史学・景観学・人類学の専門家を中心に（平成 23 年度はさらに若手を加え）研究チームを構成し、縄文時代から近世・近代に至るまでの番町地区の考古学的・歴史学的・地理的・地域学的背景を包括的に概観した。すなわち大妻学校が発展して来たこの土地の特徴を総合的に考察した。

2. 活動実施報告

平成 22 年度には、本計画のほぼ全容（縄文時代以降から現代に至る長期の重要な事象、すなわち地形的理解、そこに暮らす人々の理解、および歴史的事実のほぼ全般）について整理を行い、平成 23 年度は、江戸の古地図等を購入し、江戸期の各事象との具体的対応を行なった。換言すれば「日本列島の成立と日本人の起源」から「近世の江戸

城成立と幕府衰退」に至る総合的歴史観に立って大妻開学の地の特徴を理解し、その上で「大妻開学および発展に関わる出来事」を、報告書にまとめた。その内容を以下のように要約する。

第 1 章「日本列島の成立と日本人の起源」

新生代第 3 紀、中国大陸東端の堆積物と付加体からなる日本列島の母体が観音開き状に中国大陸から解離し、現在の日本列島の形を形成したが、北緯 40 度の日本海まで黒潮（暖流）が北上し、冬季に裏日本に大量の雪を降らせるという特殊な環境を作り、多様な固有種を生み出すという特殊な状況を作り上げた。ここに氷河期以降、南方及び北方から進入した人類が原日本人を形成し、さらに弥生時代を中心に朝鮮半島経由で寒冷適応能力の高い集団が進入し、現在の日本人の元を形成した（二重構造説）。これら日本人の起源および日本の更新性人類について概観。

第 2 章「関東地域における人々の生活（旧石器時代から古墳時代まで）」

関東地域の最初の住民である旧石器時代人の暮らしの復元、弥生時代へと移行する暮らしの変遷、すなわち米作りへの決断と挑戦（食生活変革の意義）、住居、葬制、小地域土器分布圏の出現、国づくりへの芽生えと古墳の造営、墳丘墓から高塚古墳への変化、炉からカマドへの変化、土師器と須恵器、土器の移動と人の交流、すなわち古墳時代人のくらしについて概観。

第 3 章「関東地域の古代の様相（考古学資料からみた奈良・平安時代）」

律令社会における武蔵国の成立と展開、すなわち豊島郡・荏原郡の範囲と官衙・武蔵国府の設置、武蔵国の郡衙の設置、武蔵国分僧寺・尼寺の創建、

東山道武蔵路から東海道への変更，五畿七道と東山道武蔵路の関係，古代武蔵国の官道と千代田区内の村落遺跡分布，千代田区域での遺跡の様相と分布，出土遺物から見た千代田区域の地域性，すなわち関東地域の人々の生活・生活用具について概観．さらに貧窮問答歌など古代（奈良時代）の東国の人々の暮らしについても追加考察した．

第4章「中世における江戸城とその周辺」

江戸氏の台頭と江戸郷，平将門の乱と武蔵国，源頼朝挙兵と江戸氏，承久の乱での江戸氏の活躍，江戸語の語源と地形，後醍醐天皇の挙兵，新田義興の謀殺，鎌倉幕府と鎌倉公方，足利持氏の興亡，古河公方の誕生，古河の立地条件，享徳の乱の終焉，太田道灌と江戸城，太田道灌と山内・上杉氏，古河公方足利政氏と山内・扇谷上杉氏，小田原北条氏の台頭と政氏・高基の対立，足利晴氏と小弓公方の滅亡，足利義氏と藤氏，小田原北条氏と江戸城，小田原北条氏の江戸城奪取，関東における江戸城の役割，江戸城の城代・遠山氏・北条氏所領役帳と江戸衆，第二次国府台合戦と江戸城の位置づけの変化，上杉謙信の関東侵攻，発掘された中世江戸城の概要，中世江戸城と城下，中世江戸城の位置と発掘された中世江戸城，中世における番町・麴町周辺の概要，中世の地形と江戸城下中世遺跡の調査，中世江戸周辺の推定地形，中世江戸城下の村落，千代田区内の遺跡分布，江戸城東方の遺跡，番町・麴町の遺跡，小田原北条氏の盛衰と江戸城落城，北条氏の勢力拡大，関宿合戦，一色氏の出自，京都一色氏・野田氏と栗橋城，北条氏照と栗橋城，小田原合戦と江戸城落城，中世における番町・麴町周辺の概要，交通の要所，麴町の地理的な条件，番町・麴町境界の中世遺跡，番町の地形と屋敷割・構造，発掘された旗本屋敷跡，江戸城外堀跡について概観．

第5章「武蔵野台地と下総台地に挟まれた東京低地を流れる河川の変遷」

江戸幕府成立を契機とする関東地域の発展と生活の変容，すなわち利根川東遷，利根川研究史，利根川東遷と五霞町，利根川東遷と川妻村文書，赤堀川・川妻村・根岸門蔵と川妻村文書，川妻村文書の検討，諸研究者の赤堀川論，「治河言上之案文写」の利根川東遷，武蔵野台地の河川と大妻周辺の水辺，武蔵野台地の概略，神田川・玉川上水・日比谷入江・溜池について概観．

第6章「近世における江戸城とその周辺」

江戸幕府開府と江戸城拡張，後北条氏滅亡と家康関東入国，家康の家臣団配置，文禄期までの江戸城普請，慶長期の江戸城普請，元和・寛永期の江戸城普請，武家屋敷の建設，諸大名の屋敷地の拝領，慶長・寛永期の武家地，旗本屋敷の形成，町屋の形成，城下町の形成，麴町地域の町家の形成と発展，明暦の大火以降の江戸城と城下町，江戸の改造計画とその実施，寺社の移転，新町の起立，火除地の設置，17世紀後半の町の動向，寛政年間以降の町の移動，旗本屋敷地の都市空間的な特徴と番町・麴町付近の変遷，江戸の都市構造からみた旗本屋敷の配置，江戸時代後期・幕末期の旗本屋敷の分布，屋敷割に対する地形の影響，大妻学校周辺番町・麴町地区の旗本屋敷の変遷，番町・麴町地区の地理的な変遷，番町の町割，三番町の微地形，大妻女子大学敷地の変遷，佐野善左衛門家と佐野善左衛門のしだれ桜について概観．さらにこれら名所旧跡をたどる巡見コースを紹介．

第7章「大妻開学及び発展に関わる背景と出来事」

大妻開塾以前の女子教育，コタカの結婚と大妻学校開塾，大妻学校の発展，関東大震災と大妻良馬の死，第2次世界大戦敗戦とコタカの教職追放，コタカ没後の大妻学校の発展を資料を元に解説．

3. 研究目標の達成状況

平成 22 年度は，大妻学院の立地に関わる基本的な事象について整理し，平成 23 年度は，若手研究者を加え，これら事象の証拠となる文献や古地図などを入手・整理し，さらに細部の情報を追加し，女子教育機関としての大妻学校誕生の背景と意義をより鮮明に理解することが出来た．

4. まとめと今後の課題

大妻学院の立地する番町地区は，古くから文化の要所としての役割を果たし，教育を醸成する土地柄であると認めることが出来る．今後はさらに，本研究で得られた大妻学院の立地に係る要件をさらに精密に分析し，大妻女子大学博物館の基礎的資料にしたいと考えている．

5. 研究成果

研究成果の公表は，報告書を作成した他，「東国の歴史講座 1」として平成 23 年度一般公開の講座を行なった．なお，平成 24 年度もこの研究成果を「東国の歴史講座 2」として一般に公開する予定である．

以上